

能代公園アート祭り開幕

「芸術の秋」楽しむ

創造性豊かな作品や舞も

能代市の能代公園で13日、市民有志による「能代公園秋のアート祭り2025」が開幕した。会場には彫刻や石ころアート、つるし飾りなどさまざまなジャンルの作品が一目見えたほか、俳聖碑の解説会や龍泉寺（清助町）での創作舞踊の演舞といった催しも実施。あいにくの雨となったが、市民が次々と訪れて「芸術の秋」を楽しんだ。会期は15日午後3時まで。

アート祭りは、多くの市民に同公園の豊かな自然の中で芸術に触れてもらおうと、令和2年に「能代公園立体造形展」として始まり、今年で6年目を迎えた。今回は俳聖碑周辺に能代山本や北秋田市、秋田市の作家が制作した木彫やコンクリート彫刻、石ころアート、流木アート、英国の世

界遺産「ストーンヘンジ」を再現したミニチュア、かつて能代高や旧能代北高の美術部員が制作し、県総合美術展で入賞した強化プラスチック製の立体造形や石ころ像など約20点を展示。園内の松風庵には、市内の絵画愛好者や同市出身の画家、宮腰喜久治さん（故人）と大原直三さん（同）の



多彩な芸術に触れられる「能代公園秋のアート祭り」が開幕



つるし飾り絆の会メンバーの力作もずらり



鬼子母神をテーマにした創作舞踊を披露



海岸で拾った流木を生かした作品も一目見え

作品計8点、ステンレス工芸6点、同市のつるし飾り0点以上がずらりと並ん

だ。初日はあいにくの雨模様となったが、午前を中心に市民らが次々と訪れ、1点ずつ作品を鑑賞。作者による作品解説もあり、芸術の奥深さと魅力に触れていた。また龍泉寺では、同市のハンドパン奏者・あらんさん。特に14日は、音楽のステージや初めての試みである『ライブペインティング』を開催。「鬼子母神」をテーマに、須藤さんは母性や情念を情感たつぷりに表現し、訪れた人を魅了した。主催する実行委員会では、同代表を務める川添能夫さんは、昨年までは異なり、今回は企画物が盛りだくさん。特に14日は、音楽のステージや初めての試みである『ライブペインティング』を開催。きょう14日は同寺が協賛企画として文化財の一般公開（拝観無料）を行うほか、本堂内で裏千家大谷社中が呈茶席（1席500円）を設ける。